

# 概要報告

実施期日	8月1日(木)
部会名	中学校 総合的な学習の時間部会

## 神奈川県研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

## テーマ

『3年間を見通した総合学習の計画と展開～広島修学旅行に向けた平和学習の取組～』

## 提案概要

○提案校では、総合的な学習の時間の目標を

- ・自らの課題をみつけ、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ・学び方やものの見方を身につけ、問題解決に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えたり、地域にかかわろうとする資質をはぐくむ。

としている。その中で、課題解決能力の育成と自己の生き方を考える手立てとして、修学旅行先を広島とし、学習の柱の1つに平和学習を据えて、重点とすることを教職員間で確認した。

- 長年にわたり平和学習を実施しており、地域の人材・資源、校内などに平和学習の遺産が多くあり、取り組みやすい素地があるが、教職員の入れ替わりにより、引き継ぎができていない部分があること、どうしても教師主導の学習となってしまう、生徒が主体的に取り組む探究的な活動につながりづらいことが課題となっている。
- カリキュラム・マネジメントの視点では、総合的な学習の時間における学びを、教科等の学習と関連付けることや、本校に既存の教材を教職員間で共有し、適切な場面で活用すること等に課題がある。本校がこれまで平和教育を進める中で使用した学習教材や、新たな資料等、学校全体として受け継いでいけるよう取り組むこととした。総合的な学習の時間における学びを、「平和教育」を柱として、生徒の主体的な取組となるよう工夫するとともに、「平和教育」を軸とした探究的な学習となるよう、生徒の思考の姿をとらえ、生徒が主体的に取り組む、探究的な活動になるような工夫ができないかという視点で本実践を行った。
- 「戦争がないことが平和なのか」そして「平和とは何か」という問いを常に投げかけ、多様な題材を元に生徒の思考を促し、教科および教科外の活動との連携による取組（英語科、美術科、社会科、朝読書等における「選書」の工夫）、総合的な学習の時間（平和読書、「ちがいのちがい」を「平和学」の視点で分析、提案校の市内の戦争遺跡を調べる、新聞社が発行する教育特集紙を使った原爆被害に関する学習、修学旅行における取組として、平和セレモニーを企画・実施、広島平和記念資料館の見学、修学旅行のまとめ）、地域資源の活用（オンライン被爆体験講話、インドネシア文化・平和交流事業、SDGs体験学習、NHKや広島テレビ、広島平和記念資料館HPの映像・オンライン資料）などを行い、学習をすすめた。
- OPPA (One Page Portfolio Assessment)シートを平和シートとして用い、生徒の思考の変容を見取れるよう、学習前・中・後の自分の考えを記録させ、教員間で共有した。

## 質疑応答

【質問】「平和とは何か」という問いへの教員の回答、授業でどう伝えていくのか。

【回答】教員の回答は、それぞれで異なる。生徒の回答も違ったもので良い。8クラスあるので、統一する難しさを感じている。教員にはワークシートに赤文字で進め方を書き、授業を進める。担任の力量によるところも大きくなる。

【質問】広島への修学旅行がゴールになってしまうのではないかと、生徒の主体的な取組にする工夫はどんなものがあるのか。

【回答】それがゴールとなってしまうまいよう授業に取り組んでいるが、難しい面もある。自校にある素材（図書室の本、地域の人材、地域の建物）を利用したり、授業での伝え方などを工夫し、生徒が自分ごとになるように取り組んでいる。

## 協議の柱及び協議概要

### 【協議の柱】

- ①生徒の主体的な学びを生み出すための工夫
  - ②平和学習の取組の現状と、継承にあたっての工夫
- 平和学習を行うことは大切なことだとわかっているが、どうしても教師主導となってしまう、総合的な学習の時間に扱うとなると生徒が主体的に学ぶという点で難しさを感じる。平和学習は様々な切り口があり、広がりすぎてしまう懸念がある。ただし、情報の収集という視点では探究的な活動となり得る。
- 地域の特性や児童・生徒の発達段階に応じて、扱い方が難しい。授業をこなすことが目的とならないような工夫が必要。児童・生徒がどこまで自分ごととして考えてもらうか、アプローチの仕方を考えていきたい。
- 子どもの主体的な取組とするためには、戦争を体験した世代や語り部の減少などについても伝えていき、子どもが聞きたくなるよう工夫する必要がある。また、総合的な学習の時間のスパイラルを生み出すための具体的な手立てを考えていく必要がある。平和学習でつけたい力を明確にし、3年間の見通しをもって取り組んでいかなければならない。

### まとめ概要

- 平和学習を総合的な学習の時間で取り組んでいく場合、探究的な学習＜課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現＞のスパイラルとなり得るか検討することが大切。本実践については、生徒が探究したい課題として平和学習が位置づけられていたか。さまざまな資料を提示し、教師の先導がありつつも、教師の思いを伝え、生徒とのやり取りの中で生徒の今現在の考えに揺さぶりをかけ、生徒が本気で平和について考えさせることができていたか。「戦争がないことが平和」という単純な答えにいきつくのではなく、生徒が本音で考えていけるような仕掛けや支援を生徒の実態に合わせて行うことができたか。このような点について振り返ることが大切である。
- 総合的な学習の時間の学習内容を学校・学年で継承すること、学校規模によっては学級での活動がメインとなってしまうこと、核となった先生の異動でも続けていく難しさ、自分の教科に加えて総合的な学習の時間の1つ1つの授業を考えてく大変さは、どこの学校でも総合的な学習の時間の担当の教員は感じていると思う。カリキュラム・マネジメントの視点からも学校、地域、教科、教員などさまざまな強みを活かし、巻き込み、学校全体で取り組んでいかなければいけない。
- 本研究では、平和シートの見取りから生徒の思考の変容し、考えが深まっている様子が伺えたり、平和とは何か考え続けていく姿勢が伺え、探求への意欲を記していることは成果としてあげられる。
- 平和学習を総合的な学習の時間の柱として取り組む1つのモデルとして、教員が異動してもその学校の特色を生かした総合的な学習の時間を継承する取組の1つのモデルとして、大変有意義な提案であった。